

視覚障がい者 ICT サポート

ボランティア募集

パソコンや
スマホが
得意な方



視覚障がい者
の支援に関心
のある方

私たちは、視覚障がい者を対象に iPhone やパソコンの使い方の講習会や相談会を行っているボランティア団体です。一緒に活動していただける方を募集しています。

□ ボランティア活動の内容

・勉強会への参加

視覚障がい者に便利なアプリの使い方について勉強し、視覚障がい者の立場に立ったサポートができるように、個々のボランティアのスキルを高めます。初めての方も安心して活動に参加できます。

・講習会、相談会、情報提供

定期的に開催する講習会・相談会において、視覚障がい者に ICT 操作の指導を行うほか、情報収集・提供、広報などさまざまな活動を行います。



ボランティア募集
ページ

デジタル社会



ボランティア応募方法

一緒に活動をしませんか。希望される方はメールまたは電話で連絡ください。

- ・姫路デジタルサポート (ボランティア団体)
- ・e-mail: info@voice.digital-society.org
- ・Tel: 079-228-5856(栗川)

□ 必須生活ツールとしての ICT

今や iPhone やパソコンは、視覚障がい者にとって必須の生活ツールとなっています。

ICT の操作を視覚障がいのある人が一人で学習することは困難であること、また、身近に教えられる人がいないことから、操作方法を学習する場が必要です。



メール起動

□ 視覚障がい者のパソコン・iPhone の使い方

視覚障がい者も一般の iPhone やパソコンを使いますが、画面を読み上げるスクリーンリーダーというソフトを利用します。

例えば、iPhone の場合、標準で内蔵されているボイスオーバーというスクリーンリーダーの音声を聞き、指を使ったジェスチャーで操作を行います。ジェスチャーには、左右の1本指のスワイプ、タップ、ダブルタップに加えて、2本指や3本指、4本指を用いたものなど多くの種類があります。操作の状況に応じて適切なジェスチャーを行う必要があることから、操作が複雑となります。



視覚障がい者の使い方の説明



視覚障がい者の現状について詳細

□ ICT の利用実態とデジタル社会

情報を利用できる人と利用できない人との間に生じる格差のことをデジタルデバイド（情報格差）と言います。現在、デジタル庁の設置をはじめ、社会全体のデジタル化が急速に進められています。情報弱者にとってデジタルデバイドがますます拡大することが強く危惧されます。

厚生労働省の調査結果から、視覚障がい者の約8割が ICT を有効に利用していないと推測されます。「デジタル社会において誰一人取り残さない」という活動が必要です。

□ 姫路デジタルサポートとは？

2021年5月に準備団体として活動を始めた「若い」ボランティア団体です。11月に開催する発足総会にて正式に発足します。

次の基本理念に基づき活動を行います。

- ・「障害者誰一人取り残さない」をミッションとして、デジタルデバイドの解消を目指しています。
- ・視覚障害者の経験や意見を大切に、活動に反映させます。
- ・「サポートを受けた人」が「サポートをする人」に成長することが喜びです。



姫路デジタルサポートについて